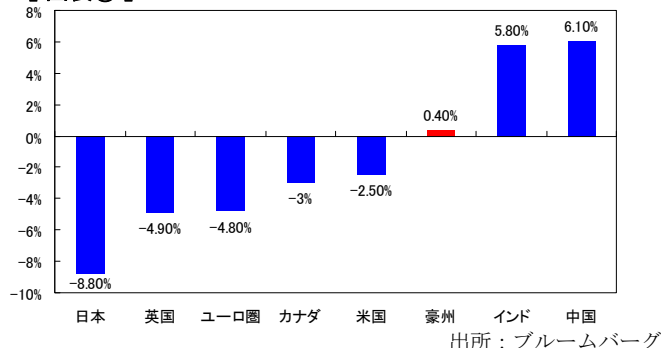


豪州の政策金利3%据え置きについて

- ✓ 豪州準備銀行(RBA)は、市場の予想通り現行3%の政策金利の据え置きを発表。
- ✓ 豪州経済については、主に住宅市場の回復基調、インフレの沈静化等について触れ、6月の声明よりも楽観的な評価をした。

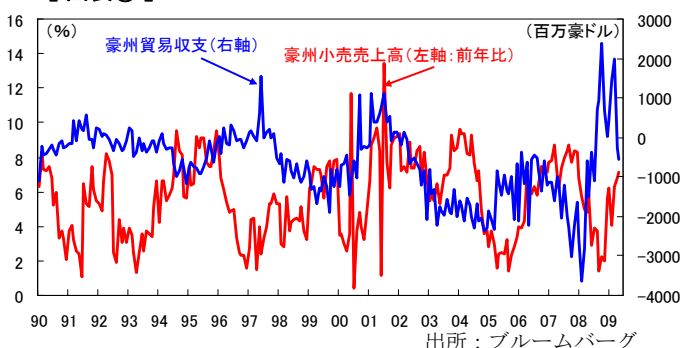
RBAのステーブンス総裁は、6月時点と比べて豪州景気に楽観的な見方をしている模様です。財政刺激策と50年ぶりの低い金利水準が景気の下支えになっている模様です。また中国経済の回復も資源輸出国である豪州への需要増としてプラスに寄与するとの見方をしています。豪州は1-3月期実質GDPで、中国やインドと並びプラス成長を遂げた数少ない国の一つです。

【図表①】



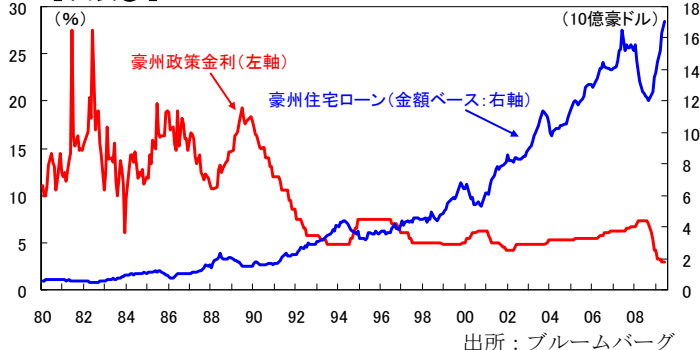
豪州経済の明るい一面は、小売売上高にも見られます。小売りは財政刺激策の恩恵を受けていると考えられます。他方、貿易収支は8ヶ月連続の黒字を計上した後、2ヶ月連続で小幅赤字を計上しました。豪州経済は世界的なりセッション(景気後退)の影響を受けているのは間違いありませんが、その影響度は他国と比較して軽微に留まる可能性が見てとれます。

【図表③】



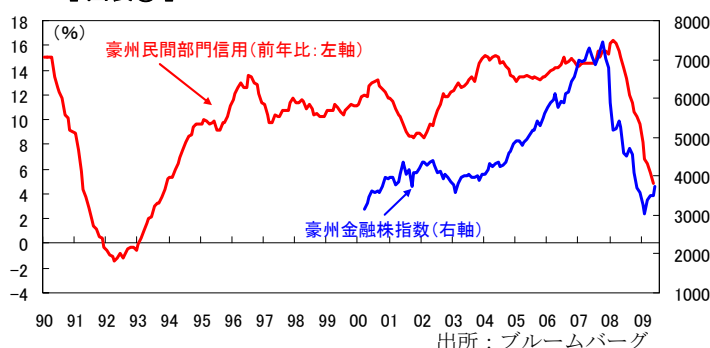
豪州の政策金利は80年代においては平均15%近い高水準にありました。一方、現状の政策金利は歴史的な低水準にあります。この比較感もあり、豪州の住宅ローン需要は政策金利の低下に対して敏感に増加する傾向があります。足元も昨年9月以降の4%にも及ぶ政策金利の引下げを受けて、住宅ローン需要が回復してきました。これは、豪州経済の明るい材料といえます。

【図表②】



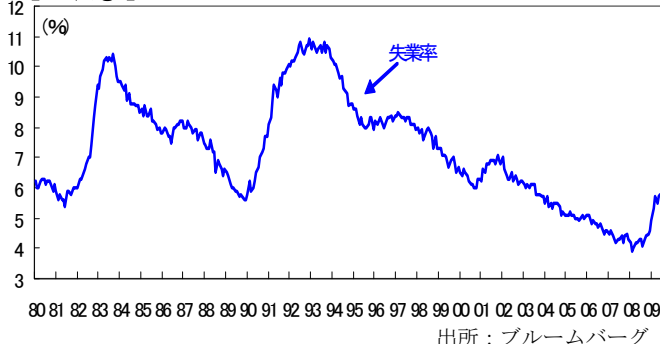
豪州の金融危機は他国の状況と比較すると軽度であるとの見方があります。しかし、金融株の急落に連れて、民間部門信用も急低下しているという懸念材料もあります。足元、金融株は反発しましたが、今後民間信用もこれに連動し、回復傾向を辿るのにか要注目です。

【図表④】



RBAは声明文の中で、「経済・金融情勢の今後の展開次第では利下げする余地は多少ある。」と表明しています。市場では、直ちに利下げが行われると見る向きはありませんが、失業率の上昇傾向が継続した場合は、利下げに動く可能性も捨てきれません。

【図表⑤】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

